

Works01

課題テーマ 12人のためのシェアハウス（2年次課題）

【課題趣旨】

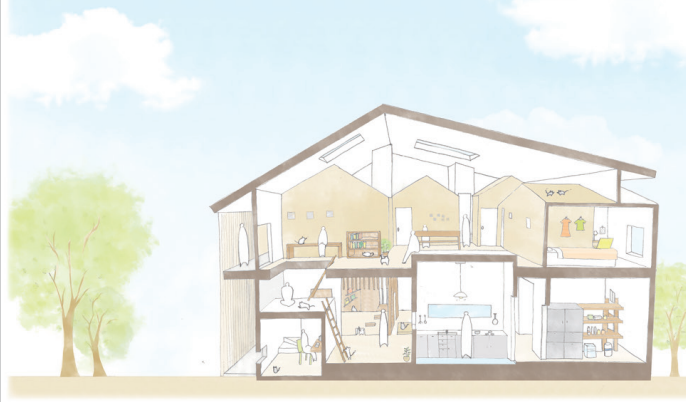
シェアハウスは他人同士が何らかを共有することで成立する。構造及び法規をクリアした上で、且つ、豊かで機能性を満たした共有空間を提案すること。

【コンセプト】

ペット殺処分ゼロへの取組みに貢献できるシェアハウスの提案。このシェアハウスは、保護猫の新しい居場所であり、猫と人が、居場所や時間をシェアする場所。人の空間に猫の習性を落とし込み、そこで生まれる空間は、12人同士の空間も変わる。（志塚理美）



ねことシェアする12人のためのシェアハウス



■Concept

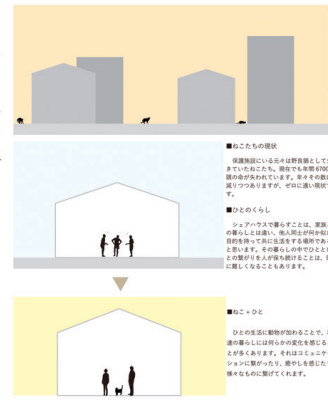
近頃、ねこの殺処分ゼロへの取組みが多く行われている。日頃、私達もその動物をメディアを通して目撃することが多くなったように思う。毎年数に比べ、多くのねこが救われてきたが、まだ受けきれない殺処分の現状だ。そこで、この取り組みに少しでも貢献できるようなシェアハウスの提案をする。

このシェアハウスは、保護猫たちの新しい居場所であり、ねことひとがそれぞれの居場所や時間をシェアする空間に暮らせる場所。ひとの生活する空間にねこの習性を空間に落とし込みながら生まれる空間は、ここに住む12人の関係にも大きく反映されるだろう。

それは例えば、キャットタワーのように猫の習性を活かしたような空間。そのフロアの上からビーズを落とす、小さなスペースでねこと目をぼつぼつと見せあわせ、ときには、互いの尻尾を揺らして挨拶するの姿までもで、ねことひとの距離感が変わっていく。

そんな生活を送ることで、ねこは安心感、ひとからの愛を分かちあえる。ひとからはねこを愛し、ねこの自由で寛大な姿を学ぶ。そして、互いに寄り添い、同じ時間を過ごすことでこの空間にしかない特別な流れを感じることが出来る。

こうした、ねこのために仕掛けた空間の提供は、保護猫殺処分の生活の中に必要なことなのかもしれないと思える。

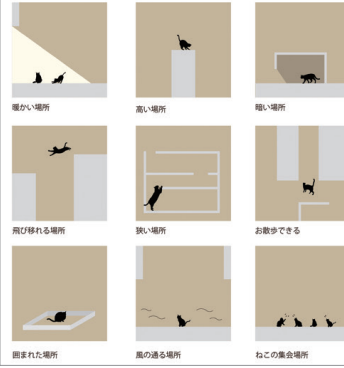


■ねこたちの居場所
保護猫がいるような野良猫として生まれたねこは、猫でも年齢が3000歳前後が推定されています。その年齢は驚くつづありますが、ぜひ迎えたい居場所です。

■ねこの暮らし
シェアハウスで暮らすことは、保護猫の暮らしには嬉しい、個人間の絆や仲間の関係を築いて生活する経験を得ることになります。その暮らしの中でひととの距離が縮まり、猫の暮らしも変わっていきます。

■ねこ+ひと
ひとの生活に動物が関わることで、保護猫らしさに伴った変化を感じることも多くなります。それはコミュニケーションに繋がったり、愛や信頼がたまり、暮らしも豊かになっていきます。

■ねこの習性



■ねこの習性+ひとの生活

